

■鳥居素川 ジャーナリスト、新聞人。{大阪朝日新聞}で、民本主義の言論を主導するも、“白虹事件”で不遇。  
とりいそせん  
大政奉還・1867= 熊本城下で、熊本藩の藩医鳥居般蔵の三男に生まれる。  
明治維新・1868= 1歳：

明治6年政変 1873= 6歳：

三つの反乱・1876= 9歳：

やや長じて明石華陵に就いて漢学を学び、

明治14年政変1881=14歳：

のち\_済々黌に入学し、佐々克堂(友房)の薫陶を受け、文武両道に抜群の才を発揮する。

内閣発足・1885=18歳：

国民之友始・1887=20歳：上京して独逸学協会学校に入学、

帝国憲法発布1889=22歳：

帝国議会始・1890=23歳：荒尾精に勧誘され、卒業を待たず上海の日清貿易研究所に入った。

やがて病を理由に退学、母とともに京都に仮寓中、\_天田愚庵の知己を得、

大本教・1892=25歳：\_陸羯南に紹介され{日本}新聞に入社。

日清戦争始・1894=27歳：\_日清戦争には従軍記者として派遣され、その戦地報道が読者の好評を得る。

八幡製鉄始・1897=30歳：\*池辺三山の推挙により{大阪朝日新聞}に入社、筆鋒鋭く論陣を張った。

田中正造直訴1901=34歳：\_ドイツに留学。

この間多くの通信を送って、

日比谷公園・1903=36歳：\_帰国。

日露戦争始・1904=37歳：\_日露戦争にも従軍。

日露戦争終・1905=38歳：

\_新聞小説の改良を図るべく尽力して、

韓国反日暴動1907=40歳：\*夏目漱石の招聘を実現。

大逆事件判決1911=44歳：\_英国皇帝戴冠式に参列して通信を送り、

明治天皇没・1912=45歳：\_帰途各国を巡ってこの間の見聞を「頼杖つきて」と題して連載し好評を博した。

社内においては西村天因派と対立するも、

民本主義・1916=49歳：\*編集局長に就任したが、

本格政党内閣1918=51歳：\*いわゆる<白虹事件>の責任を負って退社。長谷川如是閑・丸山幹治・大山郁夫らも連袂退社。

ベルリン条約・1919=52歳：\_雑誌{我等}を長谷川らと創刊。{大阪朝日新聞}{大阪毎日新聞}の2大新聞に対抗して{大正日日新聞}を創刊

したが、社内の統一を欠き、加えて経営も悪化し、

大暴落・1920=53歳：\_解散した。

原敬首相暗殺1921=54歳：

\_以後、兵庫県芦屋の自宅に閑居、

治安維持法・1925=58歳：ドイツに遊び、

金融恐慌・1927=60歳：\_中国を視察、これを「支那は支那なり」と題し{大阪毎日新聞}{東京日日新聞}紙上に連載したが、

共産党事件・1928=61歳：病を發し、\_没した。